

目的 結婚は青年にとって人生の最大の課題である。学生々活の最終学年で、卒業を控えている男女学生は、結婚に関して、殊に相手に対して、どのような理想像を持っているのか、また、その性差のずれなどについて調査したいと思った。

方法 昭和56年11月に、広島市内某私立女子短大2年生220名と同じく市内の私立大学4年男子学生62名に実態調査を実施した。調査内容は、民間の結婚相談所で設けている「迷定カード」の項目(相手に望む)の一般的条件とファミリーリビングにある精神的成熟度調査項目の内的条件の二面から、調査項目を作成した。

結果 特徴的なものを挙げると、身長差は男女とも(10~19)cmを多く望み一男子(91%)、女子(65.9%)である。体格は「普通」が多く一男子(58.1%)、女子(67.7%)であるが、男子は「太め」を27.4%が望むが女子は少ない(0.9%)。年齢差は(3~5)才が双方とも多く一男子(69.4%)、女子(85.5%)である。学歴は、こだわらない者が多く一男子(74.2%)、女子(34.5%)であるが大学卒を望む女子は多い(59.6%)。また、結婚形態は恋愛が多く一男子(74.2%)、女子(50.2%)である。結婚後の家族形態は同居(直系家族)を希望する男子は26.7%であるが女子は12.4%で少なく、別居志向は男子(26.7%)に対し、女子(56.5%)である。次に内的条件の精神的成熟度の調査は、知的成熟度、感情的成熟度、社会的成熟度、哲学的成熟度から調査したものであるがこれ等を総合的平均値からみると、男女とも自己診断はほぼ同じで70点であったが、相手への希望は男子は自分と同程度(70点)を望むが、女子は自分より高く(80点)を望んでいる。